

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(令和元年12月号)

Information

□ クローズアップ診療（消化器内科）

□ トピックス（災害時における川崎市内透析医療体制について）

クローズアップ診療（消化器内科）

今回は内視鏡治療（ESD）についてクローズアップしました。

内視鏡的粘膜下層剥離術

（endoscopic submucosal dissection: ESD）について

（消化器内科 小林 俊介）



早期癌に対する内視鏡的治療は、1960年代にポリペクトミーが開発され、1980年代に内視鏡的粘膜切除術（EMR）が開発されました。しかしながら、これらの方法では一括切除できるサイズに制限があり、大きな病変の場合は分割切除および不完全切除となることが多いため、正確な病理診断に基づく根治性の評価が難しく、遺残・再発が問題点として挙げられます。

これらの問題点を解決するために考案されたのが、内視鏡的粘膜下層剥離術（endoscopic submucosal dissection: ESD）です。2006年4月に早期胃がん、2008年4月に表在型食道がん、2012年4月に早期大腸がんが保険収載となりました。ESDは病変周囲の粘膜を切開後、直接粘膜下層を剥離し腫瘍を切除する方法です。ESDにより病変の確実な一括切除が可能となり、より正確な病理組織学的検索が可能となったため、内視鏡治療後の遺残・再発率の低下、根治性の向上が期待されています。一方で従来の治療法と比べ技術的難易度が高く、出血や穿孔等の合併症の頻度が高いことも注意が必要で、十分な訓練と経験を持った医師が治療することが望まれます。

ESDの対象は原発巣が内視鏡で切除可能な病変であり、粘膜内に限局する病変であれば内視鏡治療のみで完治します。（裏面につづく）

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

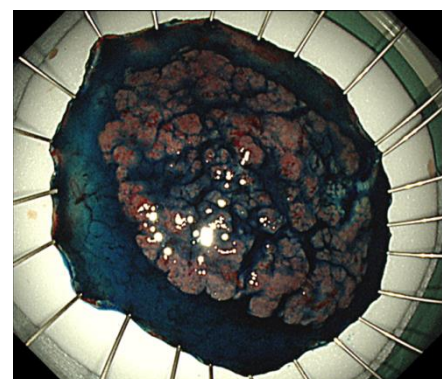
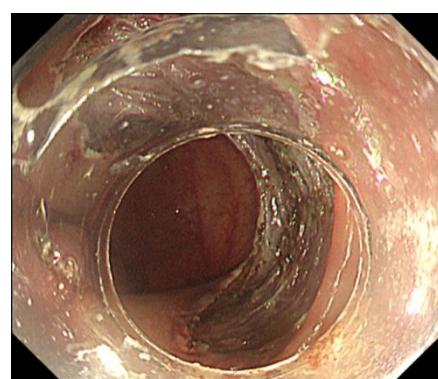
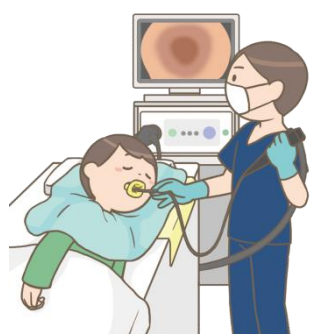
発行人：地域医療連携室
☎044-411-3131
mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp

BRIDGEPLUS

癌が粘膜下層よりも深く浸潤している場合などは基本的に外科的切除の対象となります。ESD術前には拡大内視鏡などを用いて可能な限り深達度診断を行い、ESD適応外と判断した場合は外科的切除をお勧めさせていただいております。当院でのESDは内視鏡室にて静脈麻酔下で行い、人工呼吸器は使用しません。数%に出血や穿孔の偶発症の危険性がありますが、局所治療のため術後の後遺症もほとんどありません。

患者さんのケアと質的向上と効率化のためクリニカルパスを導入しております。治療には7日～9日程度の入院を要します。少しでも地域の先生方のお役に立てることを願っております。対象となる患者さんがいる場合にはご紹介いただけると幸いです。

よろしくお願いいたします。



災害時における川崎市内透析医療体制について

～当院は災害拠点病院として、積極的な災害対策を行っており、特に透析領域については市内で中心的立場として活動しています～



腎臓内科 副部長 日本DMAT隊員(統括DMAT登録者)
川崎市透析災害対策協議会 事務局長 矢尾 淳



透析医療が経験した地震災害は、昭和53年の宮城県沖地震から始まり、平成7年の兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)や平成15年の十勝沖地震などが挙げられ、特に平成23年の東日本大震災は、みなさんの記憶に新しいと思います。また先日の台風15号による停電や断水の影響で千葉県内の一部の血液透析施設は医療継続困難となり、同県内では各施設が協力しながら継続して透析医療を提供しました。私たちの住んでいる川崎市に目を向けてみると、以前より首都直下地震の懸念は注目され議論がなされていますが、災害時の透析医療体制については全く議論が進んでいませんでした。

この現状を打破するべく、平成30年4月に川崎市透析災害対策協議会(Kawasaki-DD)が発足しました。本会は有事の際の透析医療を円滑に機能させるべく川崎市を3ブロック(南部:川崎区・幸区、中部:中原区・高津区、北部:宮前区・麻生区・多摩区)に分け、各種情報交換や決めごとを検討することを目的とした共助の会です。川崎市内の全ての透析医療機関が参加しており、当院がその事務局を担っています。その活動が認められ、今年4月より川崎市補助金事業として認定されています。

ブロック内で被災施設が通常の透析業務を継続できないと判断した場合、中部では当院が主に血液透析医療、日本医科大学武蔵小杉病院が主に腹膜透析医療の調整を行います。あくまで調整業務を担っている点が特徴です。両院は災害拠点病院ですので、災害時には多数傷病者対応が必要となります。そのような状況下で残念ながら透析医療のみの患者さんを受け付けることはほぼ不可能と考えています。Kawasaki-DDでの活動を通してブロック内で普段から連携をとり、有事の際は助け合える環境を構築しています。

首都直下地震は川崎市だけでなく首都圏全域で甚大な被害が予想されています。医療者だけで出来ることには限界があり、患者さんおよびその家族の方には自助が必要です。自助なくして共助・公助は成り立ちません。今後定期的に手段を活用して情報を発信していきますので、一緒にがんばりましょう。